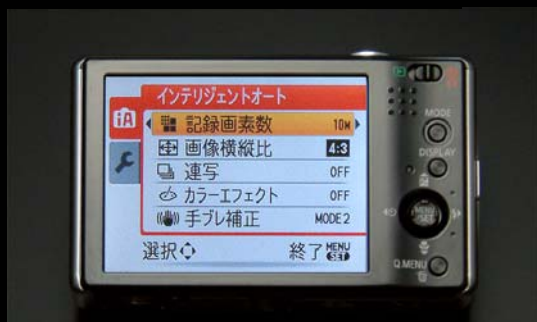


1/2.33型CCD 原色フィルター採用 本体外形寸法: 94.9mm X 57.1mm X 22.9mm 質量: 175g



Panasonic Digital Camera

10MP LUMIX DMC-FX500



タッチでピント合わせや露出設定が出来るセンサーパネル搭載 25mm~125mm 光学5倍ズームレンズ搭載
レンズ内部手ぶれ補正機能搭載 暗部補正機能つきで、人物も背景もくっきりのiAおまかせ綺麗機能搭載

本体外形は直線を生かした四角そのもので、表面がヘアライン仕上げで精密感を強調したデザインは、なかなか良い感じである。電源ボタンはスライド式で、ユーザーの声を反映したものと思われる。液晶モニターは大きく見易いが、背面操作にはやや神経を使う。モニター画面はRedとBlueがやや強いバランスに見えるが、撮像画像は極めてシャープで、何を覗いても不思議と実物より綺麗に思える。モニターがとても優れているようだ。ズームレンズは、ワイド端で糸巻き型のジオメトリーひずみが出ており、このとき中心部の被写体は奥へ引っ込み、画面の高さを直径とする円の外は極度にフレーム四隅向かって流れる。集合写真では、体の大きい人を中心に配置しよう。iA撮影モードにおいても、上の写真のような調整が出来るが、何を撮影しても適正露出が得られ、おまけに手ぶれ補正の効き具合も大変優れており、初めての私でも失敗はなかった。記録画質の解像度も申し分ないし、ブラックストレッチが常に効いた感じで暗部も見易い。どちらかといえば、ビデオ系の絵づくりといえる。一方、ハイライト上のわずかなコントラストは潰れてしまい、立体感が出にくく感じることもある。まあ、「明るいところは得意なので、こんな感じ」と画像全体を明から暗までバランスよくまとめている。一押しは、動く被写体のピントをロックオンして追尾するオートフォーカス機能。これこそ、長年の夢がかなったような画期的な方式である。面白いように追尾し、まるで戦闘機の操縦機のように。ピントぴったりで動きをリアルに撮りたい人には、願ったり叶ったりの機能といえる。色再現は、野外でも室内でも微妙な色の違いをよく再現しているが、とくに、どこのデジタルカメラも得意としている蛍光灯下での紫色を割とよく再現してくるのに感心する。同社のパルクボールPREMIERに対応しているのかもしれない。あらゆる機能が高速で動作し、映像の抜けの良さは内部の高い性能を物語っているし、もはや他社の追従を大きく振り切った感さえある。それでいて、誰が使っても構図さえ決めれば簡単に綺麗な写真が撮れるので、1ランク腕を上げた感じ。もちろん、頼まれたときに喜んでもらえる写真も撮れそう。しかし、印刷して楽しむというより、フルハイビジョンのプラズマテレビで観るのが、一番美しい画質ということになるのだろうか。